

専門科目【在宅看護】

授業科目名	在宅看護学特論Ⅳ <i>Advanced Studies in Home Care Nursing IV</i>		担当教員		
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	医療処置の必要な対象に対して医療機関の包括的支援を基盤として、検査、処置、対症療法、薬物調整などについて、アセスメントを実施し、看護を実践できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における主要な疾患の診断と治療を理解できる。</li> <li>2. 医療処置の必要な対象には医療機関の包括的支援を基盤として、検査、処置、対症療法、薬物調整などについて、アセスメントを実施し、看護を実践できる。</li> <li>3. 在宅の主な医療処置について、医療機器や器具の取り扱い方法を学ぶとともに療養者及び家族への指導方法について修得することができる。</li> </ol>				
授業計画	<p>〈本科目の授業の進め方〉          本科目は、在宅医療に関してケアとキュアの統合を学ぶ科目であり、1～12回においては、この視点を踏まえて学習し、13～15回は、ケアとキュアの統合の総合的な学びをまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1～2回 循環器系疾患の診断と治療(1)(2)              在宅医療(外来を含む)における循環器疾患の診断と治療(検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。疾病管理および、症状マネジメント              (ゲストスピーカー)</li> <li>3～4回 呼吸器系疾患の診断と治療(1)(2)              在宅医療(外来を含む)における呼吸器系疾患の診断と治療(検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)・在宅酸素療法を含む疾病管理と症状マネジメント              (ゲストスピーカー)</li> <li>5～6回 脳血管疾患の診断と治療(1)(2)              在宅医療(外来を含む)における脳血管疾患の診断と治療(検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。疾患から生じる機能障害への対応とリハビリテーション              (ゲストスピーカー)</li> <li>7～8回 内分泌・代謝系疾患の診断と治療(1)(2)              在宅医療(外来を含む)における内分泌・代謝系疾患の診断と治療(検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)・糖尿病、腎疾患を中心とした疾病管理              (ゲストスピーカー)</li> <li>9～10回 消化器系疾患の診断と治療(1)(2)              在宅医療(外来を含む)における消化器系疾患の診断と治療(検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。排便コントロール、栄養状態のアセスメントとその対策              (ゲストスピーカー)</li> <li>11回 在宅医療における感染症とその対策について              在宅における発熱時や感染徴候についてのアセスメントを実施し方法および薬物調整を含めた治療法、予防的ケアについて学ぶ。</li> <li>12回 在宅における褥瘡ケア              褥瘡治療における壊死組織の除去、不良肉芽の切除、褥瘡に対する陰圧閉鎖療法等の医療的処置について学び、訪問看護における褥瘡ケアに結びつける。              (ゲストスピーカー)</li> <li>13～15回 在宅医療におけるケアとキュアの統合              1～12回までの学修を踏まえ、ケアとキュアの統合による高度な知識技術を駆使した看護実践について討議する。さらに、在宅人工呼吸療法など高度な医療処置を必要とする療養者に対する症状、検査、処置、対症療法、薬物調整等についてアセスメントを実施し、実践する。              (ゲストスピーカー)</li> </ol>				
学習方法	主体的に学習に取り組めるようテーマに関する学生のプレゼンテーションと討議を基本とする。				
オフィスアワー					
テキスト	特に指定はしない				

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川人明：在宅医療の完全解説 2014-15年版—在宅診療・指導管理・適応疾患・使用材料の全ディテール。東京，医学通信社，2014.</li> <li>・ 日本医療ソーシャルワーク研究会、村上須賀子：医療福祉総合ガイドブック 2015年度版。東京，医学書院，2015.</li> <li>・ 大谷玲子、笠井秀子、輪湖史子：在宅療養指導とナーシングケア 退院から在宅まで〈4〉在宅人工呼吸（気管切開口/鼻マスク）/在宅持続陽圧呼吸療法。東京，医歯薬出版，2004.</li> <li>・ 合田文則：胃ろう PEG 管理のすべて。東京，医歯薬出版，2010.</li> <li>・ 岡田晋吾、三鬼達人：半固形化栄養法ガイドブック PEG から NG チューブまでできる。吹田，メディカ出版，2012.</li> <li>・ 田中マキ子、下元佳子：在宅ケアに活かせる褥瘡予防のためのポジショニング—やさしい動きと姿勢のつくり方。東京，中山書店，2009.</li> <li>・ 社会保険研究所編：訪問看護業務の手引 平成 27 年 4 月版—介護保険・医療保険。東京，社会保険研究所，2015.</li> <li>・ 大浦武彦：新しい体位変換：不適切なケアが褥瘡を悪くする！。東京，中山書店，2013.</li> <li>・ WOC Nursing Vol.2 No.10—WOC（創傷・オストミー・失禁）予防・治療・ケア 特集：在宅で考える褥瘡治療の基本と実際。2014.</li> <li>・ 日本褥瘡学会（編）：在宅褥瘡予防・治療ガイドブック 第 3 版 褥瘡予防・管理ガイドライン（第 4 版）準拠。東京，昭林社，2015.</li> <li>・ 美濃良夫：褥瘡の予防と治療・ケア用品ガイド—褥瘡の予防・治療の基礎知識と用具・薬剤の選び方のポイント &amp; カタログ。東京，医学芸術社，2002.</li> <li>・ 押川真喜子、坂本史衣：これだけは知っておきたい！在宅での感染対策—訪問看護のための基本と実践。東京，日本看護協会出版会，2008.</li> <li>・ 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版。東京，金原出版，2014.</li> <li>・ 国立がん研究センター中央病院薬剤部：オピオイドによるがん疼痛緩和 改訂版。東京，エルゼビアジャパン，2012.</li> <li>・ 角田直枝、瀧本千春：がん疼痛ケアガイド。東京，中山書店，2012.</li> <li>・ 角田直枝（編集）：実践できる在宅看護技術ガイド。東京，学研，2013.</li> <li>・ 日本呼吸器学会（編）：NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）ガイドライン。東京，南江堂，2015.</li> <li>・ 角田直枝：スキルアップのための在宅看護マニュアル。東京，学研，2005.</li> </ul>
評価方法	授業・討議への参加度（50%）、学習への取り組み・プレゼンテーション（50%）